

国際社会学部

山内由理子

Yamanouthi Yuriko

地域社会コース／オセアニア地域

文化人類学



Photo Derek Wee

オーストラリア先住民とは

私の専門はオーストラリアの先住民研究です。オーストラリアの先住民はオーストラリア大陸とその周辺の島々に西洋人入植以前より住んでいた人々の子孫である「アボリジナル」と、オーストラリアとパプアニューギニアの間にあるトレス諸島の先住民である「トレス海峡諸島人」に大きく分かれますが、前者の方を中心に研究してきました。アボリジナルのルーツとなる人びとは約5-6万年前にこの大陸にやってきたと言われ、約250もの異なる言語グループに分かれて大陸全土で其々の気候に適応した生活を繰り返していました。オーストラリアの入植が1788年に始まると、彼らの生活は激変し、様々な社会変化をこうむります。現在では、入植以前の言語や慣習が色濃くみられる中央砂漠と北部、より激しい社会変化にさらされてきた南東部で生活には大きな違いがみられます。その一方で植民地化の苦境や権利回復運動などの経験の共有に基づく連帯意識を育んできた歴史もありますし、個々人の生の軌跡の違いも大きいです。近年の博物館での遺骨返還や歴史認識、「和解」など、先住民をめぐる様々なダイナミズムが現在進行形で起こっています。

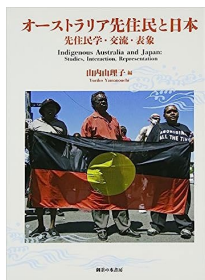
研究紹介

オーストラリア先住民の中でも、「先住民」の「典型的なイメージ」とは少々異なり、都市に住んできた人々や真珠貝採取業によって移住してきた日本人移民とのミックスの人々について研究をしてきました。これらの課題は従来の先住民に関するコミュニティ概念の根本を問いたり、先住民研究と移民研究、ミックス・レイス・スタディーズといった分野の交錯を必要とします。これまでの積み重ねを尊重しつつ、従来の学問観の基盤を問い続けるのが必要な姿勢だと常に感じています。

オーストラリア先住民研究

『オーストラリア先住民と日本』

『オーストラリア多文化社会論』



日本人移民研究

『オーストラリアの日本人-過去、そして現在』

『Hapa Japan Vol1: History』

担当授業

- オセアニア地域基礎
- 英語で学ぶオセアニア
- 「先住民族」から見る
- 「先住民族」から考える

関連する分野

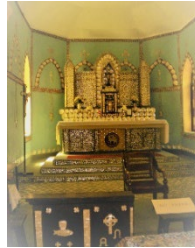
- オセアニア地域研究
- 移民研究
- 先住民研究
- ミックス・レイス・スタディーズ

出版物

- 『オーストラリア先住民と日本』
- 『オーストラリア多文化社会論』
- 『萌える人類学者』
- 『Hapa Japan Vol1: History』
- 『オーストラリアの日本人-過去、そして現在』

国際社会学部

先住民族ゼミ



どのようなゼミか

このゼミの趣旨は、「周縁」に位置づけられてきたもの—先住民族やオセアニアの事例をきっかけとして、「世界」をみるということです。従来支配的であった近代西欧的なシステムに対して彼らの存在は問いを突き付け続けてきました。そこ関わる研究を見ていくことで、今日の社会を相対化する視点を養うことを目指します。同時に、自らが疑問を持ったことを調べ形にするプロセスは、大学を離れても一生使えるツールです。ここでは、学生の方たちが自分の興味に合わせて勉強するのを手助けするのが基本姿勢です。

(1) 先住民族 (Indigenous Peoples) という言葉は現在、いわゆる入植国家 (北米、オーストラリア、ニュージーランドなど) をこえて世界中で広く使われています。「先住民族」というのは、植民地化の成立のプロセスにおいて作り出された存在ですが、彼らのマイノリティとしての状況は、脱植民地化を遂げた国民国家の少数者にも共有されていると指摘されるようになってきました。重要なことは、「先住民族」なくして近代的国民国家やそれを前提とする現代の世界システムは存在しなかったということです。このゼミでは、先住民族と「国民国家」「伝統」「環境」などのコンセプトの関わりを探ることで近代西欧的価値観を問い、先住民族自身の人、環境、自己などとの関わり方を見ることで、今日の世界がそうでなくてはならなかったのか、を問えるようになることを目指します。

(2) ここでの「オセアニア」は島嶼部を想定しています。(オーストラリア、NZ、ハワイなどは(1)に該当します)。オセアニアは海に基づいた世界観を繰り広げてきたところです。オセアニア島嶼部では現在一見近代的国民国家が成立しているように見えます。しかし、近代西洋的なシステムは彼ら独自の在り方と様々な絡まりあいをもたらしてきました。「オセアニア」を興味の入り口とする場合は、それらを観察し、今日の世界の在り方を考えていきます。

卒論

- 『「マオリかどうかは自分で決める」：民族と他者表象、先住民の視点から』
- 『人々が「行き当たりばったり旅」をする理由とは』
- 『表象における自己／他者の権力関係は乗り越えられるのか—ブラジル先住民ビデオ制作運動の分析を通して』
- 『先住民主体の「持続可能な開発」と企業参画の可能性—ブラジル・マナウスにおける日系企業の活動を事例に—』

おススメの本

- ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』
- ホブズボーム&レンジャー『創られた伝統』
- モーリス＝スズキ『批判的想像力のために』
- クリフォード『ルーツ』
- 保苺実『ラディカル・オーラル・ヒストリー』

(地域社会研究コース 山内由理子ゼミ)

「文化人類学・先住民研究・オセアニア地域研究」を掲げる山内ゼミですが、まずは『想像の共同体』などの古典と格闘することから始まります。①難しい言葉に惑わされず具体的に説明できること②わからなければどこがわからないのか説明できることを意識しながら、読解力・思考力を鍛えていきます。3年生を終える頃には、精読を通して養った「現代社会を批判的にみる」視点が、日常生活の様々な場面で生きることを実感できるはず。卒論研究は、個別面談で先生からいただくアドバイスを指針に、各自で文献を探し、読んでいくのが基本になります。同時に、卒論の構想・進捗発表を通して他のゼミ生から新たな気付きを得られるので、自らの研究を多面的に見つめ直すことができます。じっくり、こつこつ、真摯に学問に取り組むのが山内ゼミです。学生の学びを全力でサポートして下さる先生と切磋琢磨できる仲間と共に、自らの「問い」に向き合ってみませんか？